



利根山先生

記念美術館通信

Memorial Art Museum News Letter

Toneyama Kojin

〒024-0043 岩手県北上市立花15-153-2

TEL/FAX 0197-65-1808



ワークショップ参加者の皆さんと 手前エプロン姿が宮嶋さん

生きものを描こう！ 宮嶋さんを講師に、のびのび描く

恒例 秋の美術館まつり

9月14日（土）、恒例のイベント「秋の美術館まつり」を開催しました。たくさんの親子連れに参加していただき、美術館屋外スペースには絵の具やチョークで自由な色や形がのびのびと描かれ、秋の景色を一層華やかに彩りました。

企画展「生きものたち 宮嶋結香展」開催中のイベントであることから、今年は展示との関連性を意識し、美術館まつりの目玉として「生きものを描く」ワークショップを開催しました。講師はもちろん、宮嶋結香さんです。

宮嶋さんの作品の特徴は、米袋を画用紙がわりにクレヨンや色鉛筆、アクリル絵の具など色々な画材で描きこんでいくことです。その手法にならい、子どもたちにも米袋をビリビリと破いていくところからスタートしてもらいました。動物をそのまま写実的に描くのではなく、頭に浮かんだ生きものたちの姿を自由にシンプルに表現するのが宮嶋スタイルです。子どもたちは楽しみながら取り組み、ものの1時間程度でパンダ、クワガタ、小鳥など、たくさんのカラフルでファンシーな生きものたちが誕生しました。

みなさんの作品は、屋外の「絵の具でお絵描き」ゾーンでの成果品とともに北上駅前にある生涯学習センターミニギャラリーに10月20日まで展示しました。見学者からは、「こんなに楽しそうなら来年は行ってみようかな」といった期待の声も。秋の美術館まつりは来年度も実施予定です。ぜひお楽しみに！



生きものたちの表情に何を感しましたか？

後期企画展 11/24(日)まで

現在開催中の企画展「生きものたち 宮嶋結香展」。展示室でみるさまざまな動物や鳥たちの表情にホッと安心したり会話が弾んだりする親子やご夫婦も多く見られます。リアルとはちょっと違う、どこか現実離れたファンタジーの世界にいるような不思議な感覚や、生きものたちがそっと包み込んでくれるような優しさなどを感じていただいているのではないのでしょうか。

「描きたいのは動物のかわいさではなく、見ている人間の存在です」と語る宮嶋さん。言葉を知るすべもない、描かれた生きものたちだからこそ想像力は膨らみます。もしか

して見られているのは私かも。そして人間って何だろうという根本的な問いも生まれます。揉んでシワシワになった米袋にみっちり描きこまれたシンプルな形や色。紙の質感、画材との相性、版の工夫など、飽くなき探求心あってのものでしょうか。ぐっと胸に迫る確かな説得力があります。会期終了間近です。ぜひご覧ください。



(前号から続く) 駅構内の広場でその存在を探したがそれらしいものは見当たらない。かなりの人が行き交う自由通路にふらっと向かって壁の絵を見てびっくりした。それはまぎれもなく利根山作の陶板レリーフではあるが、大壁画と呼ぶにはどうかと思われる程度のものであった。大きさは約2×5m程度であろうか。何かの間違いではないだろうかとの横の説明書きを読んできた。



切り取られた壁画 (画像の一部を加工しています)

「…1882年、横浜駅の東西自由通路西口に設置され、横浜駅のシンボルとして多くの人々に親しまれてきましたが、駅の改築とともに2017年に取り外されたのち、2020年に部分的に展示されることになりました。いつかどこかで、皆さまの前に完全な姿で蘇ることを願っています。」(抜粋)

なんと、駅の改修で一度は撤去され、その後カットされた状態で再度展示されたという。何があったかは分からないが随分と乱暴なことである。しかも「…蘇ることを願っています。」とはまた全く他人事のような突き放しぶりである。前述の聖徳学園では、壁画を完璧な形で設置するために建物を改修するという大英断を下した。こちらは駅改築のために作品を1/6に切り刻み、申し訳を添えた。事実だけを見れば見事に対照的な扱いである。公共空間における芸術作品について考えさせられる事実を突き付けられた思いであった。(次回に続く)

大陶壁画「日輪」をテーマに公開授業 南中学校で

10月10日(木)、北上市立南中学校にて学校公開研究会が行われました。このうち、1年A組の美術で「郷土のパブリックアート」を取り上げた授業が行われました。北上の郷土芸能を躍動感たっぷりに明るい色調で描いた大陶壁画がなぜ北上駅にあるのか、利根山光人がこの作品に込めた思いとは何か、見た人の印象は、等を考え、グループで共有し発表していました。生徒からは「利根山光人は北上らしさ、魅力を伝えたかったのではないか」という声もあり、作品への興味がわいたようでした。

12/8 きたかみ子どもフェスタへ出展!

当初10月27日に開催予定だった第2回きたかみ子どもフェスタが諸事情により12月8日に延期となりました。利根山光人記念美術館では、クリスマスシーズンにぴったりの簡単な工作ができるブースを出展します。イベント詳細は「きたかみ子どもフェスタ」インスタグラムをご覧ください。

「友の会」活動に区切り 新たなサポート体制へ

平成11年(1999)の設立以来活動を続けてきた「友の会」ですが、会員の高齢化や内容の形骸化による会員数減少などの理由から、25年間の活動を閉じることとしました。現会長の高橋喜一郎氏をはじめとする会員の皆様や一般社団法人アルテトネヤマの了承を得たうえで解散を決定しました。

なお、より美術館運営にかかわる形での新たなサポートのあり方を検討中です。これまで美術館を支えていただいた友の会会員の皆様に感謝申し上げ、ご報告といたします。(友の会事務局)

来年4月にまたお会いしましょう 冬季休館のお知らせ

今年度の開館は11月30日(土)で終了となり、12月1日から3月31日までは冬季休館に入ります。来年度は4月1日(火)から、企画展「利根山光人 形と色の冒険(仮題)」で再開する予定です。休館中のお問い合わせは下記生涯学習文化課までお願いします。